

緊急地震速報受信専用端末の利用者が施す措置の一覧表 (「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」より)
 表内には端末利用者に推奨する措置を記述。(op)は、条件によっては、影響等を十分考慮したうえで取り得る措置の一つを記述。

No	A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御			C 端末の報知による人の危険回避		Takusu製品の適合状況					
	機械等の制御	館内放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知	その他の緊急地震速報(業)の報知	主たる用途: A及びB			主たる用途: C		
		不特定多数向けの警報に整合した放送	その他			Takusu-P II	Takusu-Sシステム (表示・制御端末付)	Takusu-V III (放送用割込出力付)	Takusu-S (高機能・卓上型)	Takusu-V (卓上型)	Takusu-V II (壁掛型)
1	気象庁が緊急地震速報(予報)を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間			1秒以内		◎ 気象庁(業務支援センター)と専用回線で弊社サーバに直結。弊社サーバでの高速演算を行い、結果のみを弊社独自の高速伝送・確認方式(SCB・UDP)で端末に送信(データが1パケット以内に収まり、パケット欠落などのデータ欠損が生じない。)また、端末は複雑な演算が不要なのですぐに出力できる。					
2	気象庁から端末まで、配信をとぎれさせないような対策			十分とられているもの		◎ ①サーバを2重化(常時稼動)している。 ②サーバの設置環境は停電対策が採られ、耐震建物に收容されている。 ③常時(10分おき)端末-サーバ間で交信。 ④コネクション不要のUDPプロトコルを採用					
3	時刻合わせ			±1秒以内		◎ サーバにて、独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに同期 端末は時刻不要 表示端末はNTPサーバーに同期 端末は時刻不要					
4	配信・許可事業者によるサポート			充実しているもの		顧客サポート窓口(タクスコールセンター)にてフリーダイヤルでサポート受付。訓練報の発報も受付。					
5	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	ラックまたは壁に取付金具有	制御端末は壁に固定	高粘着性耐震マットなどで固定			壁固定金具付
6	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	お客様でAC100Vの無停電電源を準備していただくことで可能					
7	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	可能:お客様にて受信端末を複数台設置していただくことで可能(1回線に設置可能)					
8	常時接続できる回線	必須	必須	必須	必須	光インターネット、ADSLいずれも可。但し、IPv4のみ。IPv6非対応					
	専用線などの信頼性の高い回線	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	光回線など安定した回線を推奨します。専用線、IPVPNの場合は弊社サーバにも対応した設備導入が必要なため高価になります。				
9	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	端末のLAN入力端子は1つのみ。端末までの物理回線の二重化はお客様で対応していただきます。					

No	A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御	C 端末の報知による人の危険回避				Takusu製品の適合状況						
		館内放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知	その他の緊急地震速報(業)の報知	主たる用途: A及びB			主たる用途: C			
		機械等の制御	不特定多数向けの警報に整合した放送			その他	Takusu-P II	Takusu-Sシステム(表示・制御端末付)	Takusu-V III(放送用割込出力付)	Takusu-S(高性能・卓上型)	Takusu-V(卓上型)	Takusu-V II(壁掛型)
10	予想した猶予時間	猶予時間がない場合でも利用	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	<p>○猶予時間が無い場合の制御は詳細打ち合わせ。 ○すでに主要動到達後(猶予時間が無い場合)の報知音はNHKチャイム音を出力。 ○猶予時間がある場合は原則として、到達予想時間まで制御出力が出力される。 ○音声ガイダンスは猶予時間+2~5秒間報知。</p> <p>○猶予時間がある場合は猶予時間+2~5秒間報知。 ○すでに主要動到達後(猶予時間が無い場合)の報知音はNHKチャイム音を出力</p>						
11	予想した震度	制御先の強度等に応じた閾値を設定	警報に整合	施設の安全性による閾値を設定	警報に整合	<p>任意に設定可能(警報に整合も可能) (顧客からの申請を受けてサーバに設定)</p>						
12	精度情報(凡例) 100ガル:100ガル超え 緊急地震速報 1点:1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業) 複数点:複数観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)	複数点を利用 (op)100ガル、1点等は制御の準備に利用 (op)迅速な制御を行う際には、100ガル、1点も利用	警報に整合 100ガル、1点等は放送の準備に利用	複数点を利用 100ガル、1点等は放送の準備に利用	警報に整合	複数点を利用	<p>◎ 複数点利用(RKフラッグ参照)。ならびに気象庁の警報に整合(発令地域情報に対応)した動作も選択可。 精度の低い情報による準備動作はできない</p>					
13	深発地震についての緊急地震速報(業)	利用しない (op)東日本太平洋側では、利用	警報に整合	利用しない (op)東日本太平洋側では、利用	警報に整合	利用しない (op)東日本太平洋側では、利用	<p>深さ150kmまでの情報を利用している。 ⇒気象庁の警報に使用している深さ(150km)より深いものは利用しない。</p>					

No	A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御	館内放送				C 端末の報知による人の危険回避		Takusu製品の適合状況						
		機械等の制御	館内放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知	その他の緊急地震速報(業)の報知	主たる用途: A及びB			主たる用途: C				
			不特定多数向けの警報に整合した放送	その他			Takusu-P II	Takusu-Sシステム(表示・制御端末付)	Takusu-V III(放送用割込出力付)	Takusu-S(高性能・卓上型)	Takusu-V(卓上型)	Takusu-V II(壁掛型)		
14	放送・報知内容	NHKチャイム音の後に「地震です。落ち着いて身を守ってください。」を利用	NHKチャイム音の後に「地震です。落ち着いて身を守ってください。」を利用	NHKチャイム音 具体的な予想震度、猶予時間は報知しない	NHKチャイム音 具体的な予想震度、猶予時間は報知しない	内蔵音源は、「NHKチャイム音+曖昧表現」を「猶予時間+数秒間」放送外部接続の音源を利用することも可能	・内蔵音源は、「NHKチャイム音+曖昧表現又は擬似カウントダウン」を「猶予時間+数秒間」放送 ・外部接続の音源を利用することも可能	・内蔵音源は、「NHKチャイム音+曖昧表現又は擬似カウントダウン」を「猶予時間+数秒間」放送 ・外部接続の音源を利用することも可能	・内蔵音源は、「NHKチャイム音+曖昧表現又は擬似カウントダウン」を「猶予時間+数秒間」放送	内蔵音源は、「NHKチャイム音+曖昧表現」を「猶予時間+数秒間」放送	・内蔵音源は、「NHKチャイム音+曖昧表現又は擬似カウントダウン」を「猶予時間+数秒間」放送	△ <注> 緊急地震速報放送後の実際の震度放送は本機器では行わない「地震です。落ち着いて身を守ってください」のガイダンスは内蔵していない。(外部音源を使用してください。)		
15	緊急地震速報(業)で制御、放送、報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報(業)	予想した震度によって異なる制御内容があり、制御開始後であっても制御内容の変更が許される制御対象の場合で、かつ、予想した震度が大きくなる場合には制御内容を変更。予想した震度が小さくなる場合には十分な留意が必要。震度の違いによって制御の内容を変えていない場合や制御開始後は制御内容の変更が許されない制御対象の場合では用いない	放送内容は変更しない	予想した震度によって放送を変えており、放送対象者が放送の変更に対応可能な場合で、かつ、放送後の予想した震度が大きくなる場合には震度に応じた内容を放送。予想した震度が小さくなる場合には十分な留意が必要。震度の違いによって放送の内容を変えていない場合や放送対象者が放送の変更に対応できない場合には用いない	放送内容は変更しない	予想した震度または猶予時間を報知している場合は、予想した震度が大きくなる場合または猶予時間が短くなる場合に報知内容を変更	予想震度が大きくなる場合に猶予時間とともに震度情報も更新する。それに対応して放送内容も変更する。但し、報知ガイダンスがあいまい表現の場合は震度が5弱以上に増加した場合に「地震がきます」が「大地震が来ます」に変化するだけである。 (はじめの地震が到達したと予測した時刻後に受信した別の地震については、新たな地震に該当する報知・制御を行う。)	△ 「震度が変わらず、猶予時間が短くなる」という猶予時間だけが単独変化の場合は動作は変化しない	制御内容も震度が5弱超になった場合にはそれに応じた制御に変化する。(選択可)	制御内容は変化しない。	制御内容は変化しない。			

29111011 正式版ガイドライン利用者の対応事項説明公開用端末利用者が施す処置 (新)

No		A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御		C 端末の報知による人の危険回避		Takusu製品の適合状況					
		館内放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知	その他の緊急地震速報(業)の報知	主たる用途: A及びB			主たる用途: C		
		機械等の制御	不特定多数向けの警報に整合した放送			その他	Takusu-P II	Takusu-Sシステム (表示・制御端末付)	Takusu-V III (放送用割込出力付)	Takusu-S (高機能・卓上型)	Takusu-V (卓上型)
16	キャンセル報	制御やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	放送やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	報知した緊急地震速報に対して提供された場合は、報知	報知した緊急地震速報に対して提供された場合は、報知	すでに報知した場合にのみ報知。制御出力は直ちにリセット	すでに報知した場合にのみ報知。制御出力は設定したタイミグでリセット	すでに報知した場合にのみ報知。制御出力は数十秒後にリセット	すでに報知した場合に報知	すでに報知した場合に報知	すでに報知した場合に報知
17	試験	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や制御をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や放送をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や報知をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や報知をしない設定とすること	利用者の指定する日時にサーバーより送信 (タスクコールセンターにて受付) サービスマンのもつパソコンに接続して試験を行うことは可能 端末単独で動作させる機能はないので、通常は動作しない設定と同一となる。					
17	訓練	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や制御をしない設定とすること (Bに限る)	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や放送をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や制御をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や制御をしない設定とすること	利用者の指定する日時にサーバーより送信 (タスクコールセンターにて受付) サービスマンのもつパソコンに接続して訓練を行うことは可能 端末単独で動作させる機能はないので、通常は動作しない設定と同一となる。					
18	配信・許可事業者への連絡	推奨	推奨	推奨	推奨	タスクコールセンターにて受付					